

令和3年度事業報告

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

目次

1. 法人の状況に関する重要な事項
2. 業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）
3. 事業報告附属明細書



1. 法人の状況に関する重要な事項

令和3年4月1日から令和4年3月31日に至る事業活動として、定款第3条に掲げる「実学の精神に則り、生物学的製剤等に関する研究・調査及び助成・顕彰等を行う等して、広く公衆衛生の進歩を図り、兼ねて自然科学の昂揚に資する」ことを目的として、定款第4条並びに平成31年4月1日付けで内閣府より変更認可を受けた公益目的支出計画に基づき以下の諸事業を行った。

本事業報告 段落番号	事業名	定款 第4条	公益目的 支出計画
1(1)	公益目的支出計画に基づく実施事業		
1(1)①	研究助成事業	(2)	公益1
1(1)②	顕彰事業	(2)	公益2
1(1)③	生物学的製剤等に関する研究・調査事業	(1)	継続1
1(1)④	予防衛生普及事業		継続2
1(1)④ア	医療技術者を養成する事業への協力支援	(3)	
1(1)④イ	奨学金給付	(6)	
1(1)④ウ	学術集会開催・後援	(7)	
1(1)④ウ	大学・研究機関の後援	(7)	
1(1)④エ	寄附講座	(7)	
1(1)④オ	印刷物の刊行	(7)	
	特定寄附（熊本大学）*	(7)	寄附1
	特定寄附（熊本保健科学大学）*	(7)	寄附2
1(2)	その他の事業		
1(2)①～⑤	医療機関等への協力・支援 地球環境保全に関連する事業 健康管理支援事業ほか	(4) (8) (9)	

* 令和2年度をもって終了

定款第4条

(事業)

第4条 当法人は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 生物学的製剤等に関する研究・調査
- (2) 感染症及び血液領域を中心とした研究等に対する助成・顕彰
- (3) 医療技術者を養成する事業への協力・支援
- (4) 医療機関への協力・支援
- (5) 印刷物の刊行

- (6) 奨学金の支給
 - (7) 大学・研究機関の後援及び学術集会の開催・後援
 - (8) 地球環境保全に関連する事業
 - (9) その他当法人の目的達成上必要と認める事業
- 2 前項の事業は、本邦及び海外において行うものとする。

(1) 公益目的支出計画に基づく実施事業

① 研究助成事業

感染症領域（人獣感染症含む）及び血液領域を中心とした基礎的研究を対象とした2つの研究助成事業を実施した。

「化血研研究助成」は年齢制限を設けずに公募し、先端的・独創的に研究に取り組んでいる研究者個人若しくは研究チーム・団体に対して1件あたり年1,000万円を3年間助成する。「化血研若手研究奨励助成」は45歳未満（申請締切時点）の研究者を対象に公募を行い、先端的・独創的に研究に取り組み、独立した研究課題（研究テーマ）を持った将来有望な若手研究者に対して、1件あたり300万円を助成する。申請された候補者の中から、学識経験者10名で組織される助成選考委員会で選考した後、理事会において「化血研研究助成」6件（別表1）、「化血研若手研究奨励助成」10件（別表2）を決定し、計9,000万円を助成し、ホームページに公開した。合わせて、令和2年度「化血研研究助成」対象者5名に、計5,000万円を助成金として支給した。

また、令和2年度「化血研若手研究奨励助成」対象者9名による研究報告会を、令和4年3月10日開催した。

② 顕彰事業

感染症領域及び血液領域の研究において大きな成果のあった者で、今後も研究の進展に貢献が期待される個人・法人・研究チーム・団体を顕彰する事業を実施した。

当法人が定めた計16の学会（表1）、並びに当財団の理事及び評議員から推薦のあった者について、学識経験者8名で構成される顕彰選考委員会における厳正な選考を行い、理事会で第3回『太田原豊一賞』顕彰者2名を決定（表2）し、ホームページに公開した。授賞者には、令和4年3月10日開催の贈呈式において、太田原豊一賞（賞状、トロフィー）および副賞（1件 1,000万円）を贈呈した。

表1 推薦学会

日本免疫学会	日本ウイルス学会	日本公衆衛生学会
日本感染症学会	日本熱帯医学会	日本獣医学会
日本細菌学会	日本血液学会	日本輸血・細胞治療学会
日本血栓止血学会	日本薬学会	日本生化学会
日本エイズ学会	日本癌学会	日本寄生虫学会
日本ワクチン学会		

表2 第3回『太田原豊一賞』受賞者

氏名	所属 役職	受賞研究テーマ
赤池孝章 先生	東北大学大学院医学系研究科教授	超硫黄分子の発見と感染防御・免疫・代謝制御に関する研究
木下タロウ先生	大阪大学名誉教授 寄附研究部門教授	発作性夜間ヘモグロビン尿症の分子病態解明

③ 生物学的製剤等に関する研究・調査事業

ア. 熊本保健科学大学 生物毒素・抗毒素共同研究講座

令和元年10月1日に熊本保健科学大学に開設した生物毒素・抗毒素共同研究講座において、継続して生物毒素、抗毒素とその品質管理手法の開発研究を実施した。

表3-1 熊本保健科学大学生物毒素・抗毒素共同研究講座スタッフ

氏名・役職	経歴または現所属
高橋 元秀 特命教授	元国立感染症研究所室長
坂本 智代美 特命助教	一般財団法人化学及血清療法研究所派遣
友清 和彦 客員教授	一般財団法人化学及血清療法研究所兼務
諸熊 和則 客員准教授	KMバイオロジクス株式会社兼務
田上 友貴 客員研究員	一般財団法人化学及血清療法研究所派遣

イ. 熊本保健科学大学 品質保証・精度管理学共同研究講座

令和2年10月1日に熊本保健科学大学に開設した品質保証・精度管理学共同研究講座において、継続して医薬品 GMP とその医薬品等の品質保証、ISO15189を中心とした医学検査所の品質管理の調査・研究を実施した。

表 3-2 熊本保健科学大学品質保証・精度管理学共同研究講座スタッフ

氏名・役職	経歴または現所属
蛭田 修 特命教授	元日本製薬団体連合会品質委員会委員長
松原 朱實 客員教授	元熊本保健科学大学教授
櫻井 信豪 客員教授	元 PMDA 執行役員 現東京理科大学教授

ウ. 東京理科大学・社会連携講座 医薬品等品質・GMP 講座

令和 2 年 7 月 1 日に東京理科大学薬学部にて社会連携講座として医薬品等品質・GMP 講座を開設し、同大学 鹿野真弓教授と当法人理事長 木下統晴の 2 名を研究総括とした共同研究の枠組みのもと、継続して医薬品 GMP を中心とした研究とその教育システムの開発を実施した。

表 3-3 東京理科大学・社会連携講座 医薬品等品質・GMP 講座スタッフ

氏名・役職	経歴または現所属
鹿野 真弓 教授	元 PMDA 審議役
櫻井 信豪 教授	元 PMDA 執行役員
寶田 哲仁 研究員	元 PMDA・GMP エキスパート
蛭田 修 共同研究員	熊本保健科学大学特命教授

④ 予防衛生普及事業

ア. 医療技術者を養成する事業への協力・支援

用途を医療技術者養成と指定して、学校法人银杏学園熊本保健科学大学に対し 2,400 万円を、国立大学法人熊本大学大学院生命科学研究部（保健学系）に対し 1,000 万円を寄附した。

イ. 奨学金の給付

熊本保健科学大学の学生に対し給付型奨学金「化血研奨学金」、また、九州 8 大学（九州大学、熊本大学、長崎大学、佐賀大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学）の医学部博士課程（感染症/血液専攻）、及び医学部医学科課程の学生に対しても給付型奨学金「化血研医学奨励奨学金」の支給事業を進めた（博士課程奨学金一人当たり月 10 万円（年間 120 万円）、医学科課程一人当たり月 5 万円（年間 60 万円））。

対象となる大学から推薦を受けた 20 名について、理事面接の上、全員への奨学金給付を決定した。令和 2 年度以前からの支給者 34 名と合わせて計 54 名（表 4）に対し、総額 3,490 万円を支給した。

表4 奨学金支給件数（令和3年度）

	熊本保健科学大学	熊本大学	九州大学	長崎大学	佐賀大学	大分大学	宮崎大学	鹿児島大学	琉球大学	件数合計
化血研奨学金	12 (7)	/	/	/	/	/	/	/	/	12 (7)
化血研医学奨励奨学金	/	15 (5)	7 (3)	7 (1)	1 (1)	2 (1)	3 (1)	2 (0)	5 (1)	42 (13)
全体合計										54 (20)

※カッコ内は、令和3年度に新規に支給を開始した件数

ウ. 大学・研究機関の後援及び学術集会の開催・後援

1. 阿蘇シンポジウム（主催）

令和3年8月21日に、熊本城ホールにおいて第41回阿蘇シンポジウムを開催した。テーマを「感染症への新しいアプローチ」とし、先端の研究者13名が講演を行った。シンポジウムはWEB開催形式とし、当日の参加者は約450名。

2. 先天性代謝異常関連シンポジウム（共催）

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の流行のため、開催を中止した。

3. 肥後医育塾（共催）

令和3年度は、以下の3回の公開セミナーを肥後医育振興会、熊本日日新聞社と共催した。新型コロナウイルス感染症の流行を受け、第1回及び第2回は定員を100名に絞って開催、第3回は無聴衆とし、WEBで講演を配信した。当法人は、公益財団法人肥後医育振興会に500万円を助成、共催者として支援した。

開催日	テーマ	現地参加者
2021年7月11日	新型コロナウイルス感染症における診療連携 ～長期化するパンデミックにどう対応するか～	約90名
2021年12月11日	「かかりつけ医」と「専門病院」の診療連携 ～病気を治療・管理するには～	約80名
2022年1月16日	母と児の2つの命を守るために ～周産期医療とその連携～	無聴衆

エ. 大学寄附講座

1. 熊本大学国際先端医学研究機構造血幹細胞工学寄附講座

熊本大学国際先端医学研究機構（IRCMS）に設置した造血幹細胞工学寄附講座（平成31年4月に設置）に対し、2,500万円を寄附した。

2. 熊本大学病院地域連携病理学寄附講座

熊本大学病院に設置した地域連携病理学寄附講座（令和元年10月に設置）に対し、2,000万円を寄附した。

オ. 印刷物の刊行

当法人の事業内容を紹介する定期刊行物「OH!120」を、令和3年4月及び10月の2回それぞれ1,500部発刊した。当法人関係者等へ郵送若しくは配布したほか、当法人ウェブサイトにおいて公開した。

(2) その他の事業

① 健康管理支援事業

公益財団法人友愛福祉財団が実施主体である健康管理支援事業について、令和3年度の本事業に要する経費の当法人分担金として、1,471万1,021円を友愛福祉財団に支払った。

② 地球環境保全に関連する事業

水涵養の目的で、平成9年度及び平成10年度に九州森林管理局との分収造林契約に基づき熊本県山都町内大臣の国有林の一部に植林を行い、維持している。

③ 医療機関への協力・支援

医療法人城南ヘルスケアグループくまもと南部広域病院へ、常勤の経営管理スタッフとして職員1名を派遣した（当期12月まで）。

④ 不動産賃貸事業

ア. 熊本県熊本市南区城南町舞原

年間を通じて、医療法人城南ヘルスケアグループくまもと南部広域病院に対し、その病院用地を賃貸した。

イ. 東京都港区白金台

旧東京営業所跡地（東京都港区白金台4丁目5-1）に賃貸用マンションを建設し、運営を開始した。

2. 業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）

内部統制システムは、一般法人法第90条第5項により、大規模一般財団法人に対し、その決定が義務付けられている。当法人においては、過去に一般法人法第2条第3項に定める大規模一般財団法人^{*}に該当する時期があり、平成29年に理事会で内部統制システムの整備に関する基本方針を制定した。

現在、当法人は大規模一般財団法人^{*}に該当せず、かつ主要事業のKMバイオロジクス株式会社への承継により事業内容、組織構成並びに従業員数は大幅に縮小している。しかしながら、その規模に拘らず内部統制に係る制度を整備すべきという見地から、本年度は上記基本方針を踏まえ、コンプライアンス規程、内部通報規程、文書管理規程、情報セキュリティ取扱規程、リスクマネジメント規程等の内部統制に関する規程類並びに体制を整備した。また、前記規程に記載される諸手続きも実施した。

^{*}大規模一般財団法人：定時評議員会に報告された最終年度の貸借対照表の負債の部に計上した額の合計額が200億円以上

3. 事業報告付属明細書

別表 1 化血研研究助成概要

別表 2 化血研若手研究奨励助成概要

別表 1

【化血研研究助成】

感染症領域（人獣含む）及び血液領域を対象とした研究に対して助成を行い、対象領域の発展に寄与することを目的とする。

助成金額：3,000 万円 （1,000 万/年×3 年間）/件

助成期間：3 年

採択件数：6 件（申請件数 116 件：採択率 5.2%）

令和 3 年度助成対象者一覧

（五十音順・敬称略）

氏名	所属機関	職位	研究題目
新井 文用	九州大学 大学院医学研究院	教授	シェルタリン複合体因子群による造血幹細胞のストレス保護機構
合田 圭介	東京大学 大学院理学系研究科	教授	敗血症性 DIC のデータ駆動型研究
朝長 啓造	京都大学 ウイルス・再生医科学 研究所	教授	人類の脅威となりうる新興・再興ボルナウイルス感染症の制御に向けた基盤研究
中川 一路	京都大学 大学院医学研究科	教授	細菌糖鎖認識のニューパラダイム：非定型ユビキチン化によるゼノファジー制御の解明
山本 雅裕	大阪大学 微生物病研究所	教授	抗トキソプラズマ生体防御応答とその破綻による病原性発揮メカニズムの解明
吉見 昭秀	国立がん研究センター 研究所 がん RNA 研究ユニット	独立ユニ ット長	ミスプライミング産物の時空間的運命の決定と白血病新規治療標的の同定

別表 2

【化血研若手研究奨励助成】

感染症（人獣含む）領域及び血液領域を対象とした次世代の研究者の育成に資するために、将来有望な若手研究者の研究を奨励助成し、対象領域の発展に寄与することを目的とする。

助成金額：300 万円 （年間 300 万円）/件

助成期間：1 年

採択件数：10 件（申請件数 194 件：採択率 5.2%）

令和 3 年度助成対象者一覧

（五十音順・敬称略）

氏名	所属機関	職位	研究題目
植田 航希	福島県立医科大学 輸血・移植免疫学講座	講師	細胞間相互作用に着目した、骨髄増殖性腫瘍やクローン性造血から急性白血病への進展予防法の開発
大手 学	東京慈恵会医科大学 熱帯医学講座	講師	ウイルスに特殊な RNA 高次構造を誘導する新規機構の解明
加藤 浩貴	東北大学病院 血液内科	助教	MAT2A を標的とした新しい自己免疫疾患治療法の確立
白銀 勇太	九州大学 大学院医学研究院	助教	新概念「受容体模倣シス膜融合誘導」による麻疹ウイルス中枢神経病原メカニズムの解明
住友 倫子	大阪大学 大学院歯学研究科	講師	ウイルス感染に伴う上気道定着細菌のニッチ拡大と肺炎の病態形成を規定する宿主・細菌因子の探索
平松 征洋	大阪大学 微生物病研究所	助教	宿主感染時に高発現する small RNA を介した百日咳菌の病原性発現制御機構の解析
松崎 潤太郎	慶應義塾大学薬学部	准教授	細胞外小胞を用いた COVID-19 制御戦略の構築
見市(三田村) 文香	佐賀大学医学部	講師	赤痢アメーバ環境耐性を担う“球形”シスト壁の形成機構の解析
村上 紘一	慶應義塾大学医学部	助教	単一細胞における遺伝子・蛋白質発現同時解析による造血器腫瘍の病態解明
渡邊 洋平	京都府立医科大学 大学院医学研究科	講師	ゲノム複製動態に基づく新興ウイルスに普遍的なサイトカインストーム誘導機序の解明